

平成 18 年度 第 2 回海洋開発委員会 議事録

1. 日 時：平成 19 年 2 月 27 日（火） 13:00～15:00
2. 場 所：土木学会講堂
3. 出席者：山本顧問，高橋委員長，関本幹事長，秋山，新井，宇多，遠藤，加藤，川上，小島，小峰（代理：川地），清水，辻，坪田，中原，西，東出（代理：石貫），福濱，堀田の各委員，木村，柵頼，佐々木，古川，水谷，矢内の各委員兼幹事，織田，加藤，武田，森屋の各幹事
欠席者：梅山，大久保，清宮，多田，建部，泊，永井，中村，宮川の各委員，大塚，五明，東江の各委員兼幹事，田島幹事
4. 配布資料
 - 06-2-1 委員の推薦
 - 06-2-2 平成 18 年度 第 1 回海洋開発委員会 議事録（案）
 - 06-2-3-1 第 31 回 海洋開発シンポジウムのまとめ
 - 06-2-3-2 沿岸防災 —沿岸防災施設のアセットマネジメント—
 - 06-2-3-3 （速報）特別セッション「自然共生型事業—順応的管理の実現に向けて—」のまとめ
 - 06-2-4-1 第 32 回海洋開発シンポジウムについて
 - 06-2-4-2 第 32 回海洋開発シンポジウム 論文投稿状況について
 - 06-2-4-3 第 32 回海洋開発シンポジウム 特別セッション準備状況（アセットマネジメント）
 - 06-2-4-4 第 32 回海洋開発シンポジウム：特別セッション準備状況 大水深海域の水産利用の促進を目的とした技術開発
 - 06-2-5-1 小委員会，WG について
 - 06-2-5-2 改革小委員会活動について
 - 06-2-5-3 論文 WG について
 - 06-2-5-4 広報 WG・HP 関連
 - 06-2-5-5 平成 19 年度活動予定について
 - 06-2-6 第 33 回シンポジウム候補地について
5. 議事
 5. 1 委員長挨拶（高橋委員長）

元気のある人にイノベーションを担う機会や研究の場を提供することを基本方針として活動していくという旨の挨拶があった。
 5. 2 新任委員紹介および自己紹介
新任の委員として，梅山委員，佐々木委員兼幹事，木村委員兼幹事，多田委員，泊委員，東出委員が承認された。また，ご出席の方から自己紹介を頂いた。

5. 3 前回議事録の確認（関本幹事長）

資料 06-2-2 が示され、修正箇所等があれば後日事務局に連絡することになった。

5. 4 第 31 回海洋開発シンポジウムについて

5. 4. 1 関連行事まとめ（関本幹事長）

資料 06-2-3-1 を説明した。

論文集の残部は印刷会社に保管しているため、保管費用は掛かっていないが、長期間の保管はできない。有効活用したい方は事務局へ連絡する。

現在の論文集は本と CD-ROM がセットとなっているが、本はいらないが CD-ROM だけほしい人も同じ値段での販売になる。

5. 4. 2 関連行事まとめ（水谷委員兼幹事、古川委員兼幹事）

資料 06-2-3-2, 06-2-3-3 を説明した。

5. 5 第 32 回（次回）海洋開発シンポジウムについて

5. 5. 1 準備状況等（会場、見学会、移動教室）（関本幹事長）

資料 06-2-4-1 を説明した。

懇親会の費用のシミュレーションを 100 人で行っているが、過去 3 年の平均は 80 人程度であり、採算の面で問題ないのかという意見を頂いた。費用については、今後詳細を詰めていく。

5. 5. 2 論文投稿状況（武田幹事）

資料 06-2-4-2 を説明した。

5. 5. 3 特別セッション準備状況（水谷委員兼幹事、木村委員兼幹事）

資料 06-2-4-3, 06-2-4-4 を説明した。

特別セッションは一般セッションに比べて重要視しており、依頼論文は特別扱いである。ただし、依頼でない特別セッションへの投稿論文は、一般論文と同様の査読を受ける。

資料の記述に一般から特別セッションへの投稿分も含まれているが、一般からの投稿は審査にすべてパスしてから、特別セッションの構成論文に取り込むという姿勢をとるべきであるという意見を頂いた。

5. 6 委員会活動について

5. 6. 1 小委員会、WG の活動について（関本幹事長）

資料 06-2-5-1 を説明した。

5. 6. 2 改革小委員会活動について（木村委員兼幹事）

資料 06-2-5-2 を説明した。

海洋法が現国会で審議されており、今年の 6 月には制定される見込みである。今後は 2008 年度ぐらいまでに海洋法に規定されている海洋基本計画を策定していくことになる。技術的な観点から議論はされていないし、土木学会としても勉強が足りない状態にある。現在、技術的な観点から色々な意見を出していくのは、よいタイミングに有り、海洋開発委員会でもこの機会に対応していくテーマである。また、特別セッションで取り上げることにこ

だわらず、小委員会、座長企画セッション、シンポジウムなどで対応していくということも考えていく。

改革小委員会は名前の通り、企画ではなく委員会活動の改革を行っていくための小委員会である（高橋委員長）。

5. 6. 3 論文 WG について（武田幹事）

資料 06-2-5-3 を説明した。

5/10 に第 2 次査読結果および判定結果の通知の後、5/15 の完成原稿提出まで日数が短いという意見が出た。しかし、スケジュールの関係から日程の変更は行わないこととした。

将来的には、完成原稿を紙で提出せずに、電子データのみでの対応にできないのかという意見が出た。この件は、今後論文 WG で議論していく。

5. 6. 4 広報 WG・HP 関連（佐々木委員兼幹事）

資料 06-2-5-4 を説明した。

論文集の検索ができるようにならないかという意見が出た。土木学会では電子図書館の構想があり、2005 年度までの土木学会発行の論文の pdf 化が終了している段階にある。まずは、土木学会に任せる方向である。ただし、海洋開発委員会独自に目次だけは HP に載せる方向で検討していく。

海洋エンジニアリングニュースレターの第 1 号を酒匂顧問に執筆してもらい発刊した。今後、委員の皆さんにも投稿をお願いすることになる。

5. 6. 4 平成 19 年度活動予定について（関本幹事長）

資料 06-2-5-5 を説明した。

5. 7 第 33 回海洋開発シンポジウムの開催場所について

東京は会場費が高いので候補に上がっていない。

松山または倉敷のどちらかということで幹事会で決定する。

5. 8 顧問より挨拶（山本顧問）

新しい問題に食いつき、技術的な対応していくことが重要になるという旨の挨拶があった。